

略歴書

中村 晋 (なかむら すすむ)

日本大学工学部土木工学科・工学博士・教授



【専攻分野】地震工学，地盤工学

【本会活動】

理 事 (学術担当) : 2005 年 5 月～2007 年 7 月

論文集編集委員会・委員長 : 2005 年 5 月～2007 年 7 月

【略歴】

1980 年 3 月 東北大学大学院工学研究科 土木工学専攻修了

1980 年 4 月 佐藤工業株式会社 入社

1992 年 9 月 レンセラー工科大学(RPI) 客員講師 (1993 年 8 月まで)

1998 年 4 月 日本大学工学部土木工学科 助教授

2005 年 9 月 アーヘン工科大学(RWTH) 客員教授 (2006 年 3 月まで)

2006 年 4 月 日本大学工学部土木工学科 教授

【受賞】

日本原子力学会 第 9 回社会・環境部会賞 優秀発表賞 (2013 年)

平成 25 年度土木学会論文賞 (2014 年)

【委員会活動(直近 5 年間)】

- ・土木学会・原子力土木委員会・幹事 (2013 年 5 月～現在)
- ・土木学会・地震工学委員会・耐震規準小委員会・委員長 (2009 年 5 月～2012 年 4 月),
- ・土木学会・構造工学委員会・土木構造物のライフサイクルマネジメント研究小委員会・WG 主査(2009 年 5 月～2012 年 4 月)
- ・地盤工学会・本部支部活動活性化委員会・委員長(2010 年 5 月～2012 年 4 月)
- ・コンクリート工学協会・性能指向型耐震補強研究委員会・設計 WG 主査(2009 年 4 月～2011 年 3 月)等

【著書および主要論文(代表的なもの 10 編以内)】

- ・平成 23 年(2011 年)東北地方太平洋沖地震災害調査報告書-地震・地震動および社会基盤施設の被害-,東日本大震災に関する東北支部合同調査委員会(第一部門),共著, 2013
- ・平成 20 年(2008 年)岩手・宮城内陸地震災害調査報告書,共著,(社)地盤工学会東北支部, 2009
- ・Susumu Nakamura, Akihiko Wakai, Jun Umemura, Hiroyuki Sugimoto and Toshiya Takeshi, Earthquake-Induced Landslide: Distribution, motion and mechanisms, Soil and Foundations, Vol.54, No.3, pp.544-559, 2014.11.07
- ・秦吉弥, 中村晋, 野津厚, 本震観測記録を利用した地震動推定手法の精度とその向上策 -2008 年岩手・宮城内陸地震における震源域を対象として-, 土木学会論文集 A1 (構造・地震工学), Vol.61, No.2, pp.186-205, 2013
- ・亀田弘行, 高田毅士, 蛭沢勝三, 中村晋, 原子力災害の再発を防ぐ(その 3)-地震工学分野から原子力安全への提言-, 日本原子力学会誌, Vol.54, No.4, 2012
- ・中村晋, 樋口俊一, 澤田純男, 吉田望, 遠心振動実験による含水性状の差異が盛土の崩壊性状に及ぼす影響, 土木学会論文集 C, Vol.66, No.2, pp.446-456,2010

- ・ 中村晋, 澤田純男, 吉田望, 地震時における盛土の被災程度に応じたフラジリティー曲線の評価に関する一考察, 土木学会論文集 C, Vol.65, No.4, pp.977-988, 2009
- ・ 中村晋, 秋山充良, 澤田純男, 安中正, 西岡勉, 被災度と関連づけた RC 橋梁の損傷確率の評価手法とその適用, 日本地震工学会論文集, Vol.6, No.2, pp.17-34, 2006
- ・ 中村晋, 地震被害程度の差異に着目した地下鉄の被害要因分析, 土木学会論文集, Vol.654, No.I-52, pp.335-354, 2000
- ・ 矢的照夫, 梅原俊夫, 青木一二三, 中村晋, 江寄順一, 末富岩雄, 兵庫県南部地震による神戸高速鉄道・大開駅の被害とその要因分析, 土木学会論文集, Vol.537, No.I-35, pp.303-320, 1996

【所信】

2011 年東北地方太平洋沖地震により被災し, 重大事故が起きた福島第一原子力発電所の約 60km 西に位置する郡山において, 震災復興, 原子力発電所の事故への対応の渦中にあります. 科学技術の社会に果たす役割と同時に, その影響の大きさを体感するという貴重な経験ができました. 現象の理解を深め, 不確定な事象の上限について議論するだけでなく, その工学的な対応による影響の程度に関する情報の提供と共有化や, それを最小化するための技術に係わる研究の促進, それらを踏まえて市民との協働による防災対策の早急な構築の望まれていると思います. さまざまな分野の研究者や技術者により構成されているアカデミックソサエティーである日本地震工学会の果たす役割は大きいと思います.

これまでの経験を踏まえ, 日本地震工学会の活動に参画していきたいと考えております.

以上